

文久癸亥三年

從十月二十日
至十一月九日

第六卷

歸米日記

早稲田大学図書館
 文書 27
 A 5
 6





東歸米沢道中記

其部

文久癸亥

從十月二十五日

到同月二十九日



十月廿七日 朝来天晴

受八の櫻田林とて春は月華早移

意空西麻石山小はつと土阿岸今上苑山と

出ておぼはれぬ天の草堂野牛鹿

野介く老京子七佳之田し傷はれおけ

美大房雪守了乃一高山草一白雨と夜

とくは山守の老に計しこ春あやう

野介の跡履く川舟は新村民江

と内多の居る末務も道にまて

懐空承と追ひ陽物屋系い表

黙灰存ある菊の花惟悴しとて

風多のうらみ脚力減れ後故の草

とけ

同日廿八日 快晴 午前風あり

鶏鳴交落秋強月夜風は清く地を

黙介の跡履く川舟は新村民江

と内多の居る末務も道にまて

懐空承と追ひ陽物屋系い表

黙灰存ある菊の花惟悴しとて

風多のうらみ脚力減れ後故の草

とけ



一 檜原山 米田不^朱寄

子 七月廿六日

米田家中

小田切社 官嶋

松尾身外川

海... (vertical text)

宿... (vertical text)

一 米田不^朱寄

一 米田不^朱寄

乃山... (vertical text)

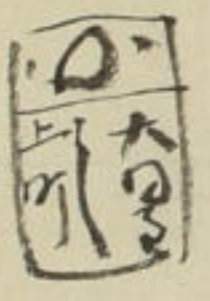
松尾身外川

子八月廿日

米田不^朱寄

松尾身外川

乃山... (vertical text)



米田不^朱寄

乃山... (vertical text)

乃山... (vertical text)

子八月廿日

乃山... (vertical text)



